



輝  
いて  
いる  
人

総社とブラジルの  
架け橋になれば

中南米の日系社会の教育文化、保健衛生、福祉部門などの発展を支援する日系社会青年ボランティア。派遣先の人たちと生活を共にし、国づくりの手助けをしている。その一員として、ブラジルのジョアンペソアで日本語を指導しているのが、平元麻依子さんだ。

「小学校のときにブラジル人の友達と接するなかで、何でも許してくれるような明るく元気で、自由な家庭の雰囲気を目の当たりにした」。ブラジルの文化、習慣に興味をもったきっかけだ。

大学では外国語学部でブラジルの公用語であるポルトガル語を専攻。2年間、ポルトガルへの留学も経験した。また、就職後も民間企業のポルトガル支店に勤務。計4年間ポルトガルで生活している。その後は、

市教育委員会の日本語教育サポーターとして、外国籍児童の教育補助、翻訳、通訳業務を行っていた。「これまでの知識、経験を生かしたい」と意気込む。

派遣期間は7月2日から2年間。若い日系人などに対し、日本語教室を開く。前任者がいなく不安もあるが「書道や料理など、日本の伝統文化を紹介することで、楽しみながら学んでほしい」と、前向きな笑顔を見せてくれた。

帰国後は、「総社で日本語教室ができれば」という平元さん。「日本で育つ外国の子どもは日本語の教育を受けられるが、その親は学ぶ機会がないなど、問題はまだまだ多い。互いの文化を知り、架け橋となる人が必要だ」と語る。またひとつ総社の多文化共生が歩を進める。

日系社会青年ボランティアとしてブラジルで日本語を指導する

平元 麻依子さん（真壁）

さあ、  
はじめよう!

ふるさとを愛する心

自分も地域の一員だと思って行動していますか？

山がある。川がある。田んぼがある。学校がある。公園がある。お店がある。お祭りがある。盆おどりがあある。おみこしがある。

おまわりさんがいる。消防士さんがいる。近所の人がいる。友だちがいる。先生がいる。あなたの家族がいる。

そんな「ふるさと」にあなたは今住んでいます。そんな「ふるさと」はずっとあなたを見まもり、あなたをはげまし、あなたのことが大好き。あなたが成長することが「ふるさと」のよろこび。

「ふるさと」の人々とのふれあいを大切にしたい。「ふるさと」の環境を大切にしたい。

いつか日本や世界のどこかに行っても、目をとじると浮かんでくる「ふるさと」総社の景色。その景色が美しく、心あたたまるものでありますように。

問い合わせ 学校教育課 (☎92-8358)



推進啓発ポスター



総社警察署が行う花植え活動に地域の総社警察署少年警察協働員といっしょに参加する総社中学校の生徒。地域の人とコミュニケーションをとることで、自分も地域の一員だと自覚し、ふるさとを愛する心につながります。

季節の絵本!

『よーい どんけつ いっとうしょう』  
梅田俊作・佳子 作・絵  
岩崎書店



今日のテーマ  
「運動会」

運動会シーズンです。朝からドキドキ。いよいよ出番というときに、おしっこ行きなくなっちゃった。あつ、泣いている子……。予想どおりの展開に、読み手もいっしょにハラハラドキドキしてしまいます。

でも、子どもの気持ちにしっかり寄り添ってくれる大人がいて、ほっと一安心。次の障害走はがんばって走れたでしょうね。

みんなはどんな運動会だったかな？

子育て王国そとじや